

ばい煙発生施設の排出基準等に係る立入検査

横山新紀 石井克巳 その他大気騒音振動研究室員

1 はじめに

千葉県では 1968 年度から大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設に対する立入検査を実施している。当センターにおいては立入検査の際にはばい煙測定を実施し、排ガスの分析を行っている。

た。

またダイオキシン特別措置法に基づく立入検査の際、同時に大気汚染防止法に基づくばい煙測定を実施した事業所数は 3、施設数は 3 であった。

2 立入検査概要

2010 年度にはばい煙測定を 2 事業所 2 施設で実施し

3 立入検査結果

結果概要は下表のとおりであり、いずれの施設も排出基準を満たしていた。

表 2010 年度立入検査結果

対象施設名	ばいじん		窒素酸化物		硫黄酸化物		塩化水素		ガス分析		煙道条件			
	換算濃度 ($\text{g}/\text{m}^3\text{N}$)	排出量 (kg/h)	換算濃度 (ppm)	排出量 ($\text{m}^3\text{N}/\text{h}$)	濃度 (ppm)	排出量 ($\text{m}^3\text{N}/\text{h}$)	換算濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3\text{N}$)	排出量 (kg/h)	CO ₂ (%)	O ₂ (%)	水分 (%)	温度 (°C)	湿りガス ($\text{m}^3\text{N}/\text{h}$)	乾きガス ($\text{m}^3\text{N}/\text{h}$)
廃棄物焼却炉 1	—	—	35	0.039	—	—	※1	< 0.82	2.3	17	12.7	54	3,400	3,000
廃棄物焼却炉 2	—	—	4	0.52	—	—	※1	< 20	10.9	7.5	33.5	180	130,000	87,000
廃棄物焼却炉 3	—	—	50	0.63	—	—	※1	< 4	4.3	15.7	26.8	143	24,000	18,000
ガスタービン 1	—	—	7	3.0	—	—	—	—	3.4	15.4	6.8	161	450,000	420,000
反射炉 1	0.005	0.12	18	0.05	21	0.52	—	—	0.2	20.2	4.8	51	27,000	25,000

※1 定量下限値未滿

揮発性有機化合物排出施設の排出基準等に係る立入検査

横山新紀 石井克巳 笠原 豊 竹内和俊 その他大気騒音振動研究室員

1 はじめに

千葉県では2006年度から大気汚染防止法に基づく揮発性有機化合物(VOC)排出施設に対する立入検査を実施している。当センターにおいては立入検査の際にVOCの採取、分析を実施している。

2 立入検査概要

2010年度にはVOC排出施設に対する立入検査の際の採取、分析を2事業所6施設において実施した。

3 立入検査結果

結果概要は下表のとおりであり、1事業所2施設で排出基準を超過した。

なお、超過の原因として処理装置として設置されている活性炭のVOC除去能力低下が想定されたため、活性炭の交換等の対応がとられている。

表 2010年度立入検査結果

事業所名	施設名	施設種類	測定値 (ppmC)	基準値 (ppmC)	適否
A事業所	脱臭装置出口	1	19	600	適
	乾燥機出口1	6	240	400	適
	乾燥機出口2	6	53	400	適
B事業所	熱風乾燥機1号	1	690	600	否
	熱風乾燥機2号	1	500	600	適
	熱風乾燥機3号	1	820	600	否

項	施設の種類
1	化学製品の製造の用に供する乾燥施設
2	塗装施設(吹付塗装に限る)
3	塗装施設の用に供する乾燥施設
4	印刷回路用鋼張積層板、粘着テープ・粘着シート、はく離紙又は包装材料の製造に係る接着の用に供する乾燥施設
5	接着の用に供する乾燥施設
6	印刷の用に供する乾燥施設(オフセット輪転印刷に係るものに限る)
7	印刷の用に供する乾燥施設(グラビア印刷に係るものに限る)
8	工業製品の洗浄施設
9	揮発性有機化合物の貯蔵タンク

特定粉じん排出等作業におけるアスベストの大気環境排出実態調査

横山新紀 猪野正和 堤克裕 その他大気騒音振動研究室員

1 はじめに

千葉県では建築物の解体作業や吹き付けアスベストの除去作業等に伴う大気中へのアスベスト飛散実態を調べるため、2006年度から特定粉じん排出等作業の現場において排出実態調査を実施している。当センターでは採取、分析を実施している。

2 調査概要

アスベストの採取は、風上風下を考慮し特定粉じん排出等作業の敷地境界4地点及び負圧器の排気口にてメンブランフィルターにより4時間連続のサンプリングを実施した。なお、採取中は表2のとおり北風が継続した。採取済のろ紙は光学顕微鏡によりアスベストの計測を実施した。なお、2010年度は、調査を1件実施した。測定概要は下記のとおり。

- 特定建築材料の種類： 吹き付け石綿
- 調査年月日： 平成23年3月10日
- 採取時間： 11:40 ~ 15:40
- 吸引ガス量： 2400L
- 分析方法： アスベストモニタリングマニュアル(第4.0版)

3 調査結果

結果概要は表1のとおりであり、敷地境界における測定では繊維状物質合計でいずれも工場に適用される敷地境界基準(10 f/L)を下回った。なお、負圧機排出口での測定では繊維状物質合計で74 f/L、このうちクリソタイルが11 f/L検出された。

負圧機排出口で高濃度が測定されることがあることから、今後は現場での蛍光顕微鏡等による迅速な測定も必要と考えられる。

表1 結果概要

	クリソタイル(f/L)	繊維状物質合計(f/L)	視野数
敷地境界(北側)	<0.10	0.41	300
敷地境界(西側)	<0.10	0.10	300
敷地境界(東側)	<0.10	<0.10	300
敷地境界(南側)	<0.10	<0.10	300
排出口	11	74	17*

*マニュアル規定の繊維数40本を超過したため、17視野で打ち切り

表2 気象条件

	風向	風速(m/s)	気温(°C)	湿度(%)	天気
11:50~12:00	NNW	2.7	7.3	17	晴
13:01~13:11	N	2.0	8.0	20	晴
13:51~14:01	N	1.5	8.2	20	晴
15:02~15:12	N	1.6	8.6	12	晴

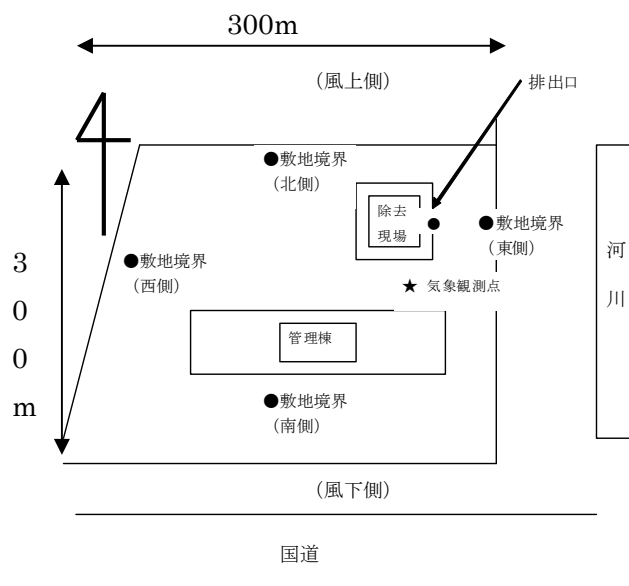


図 測定地点概要